

「国分寺市障害福祉に関するアンケート調査」の集計結果 から見える現状と課題

(1) アンケート調査実施状況

1. アンケート調査対象

国分寺市在住又は施設等に入所されており、市で援護を実施している障害のある方のうち、3,000人(身体障害者 1,500人, 知的障害者 300人, 精神障害者 500人, 難病患者 350人, 障害児 350人)を無作為抽出

2. アンケート調査期間

令和元年7月下旬～9月6日

3. アンケート調査方法

郵送による配布・回収

4. アンケート回収状況

調査対象者	配布数	回収数	回収率
障害者 (18歳以上の方)	2,650通	1,118通	42.2%
障害児 (18歳未満の方)	350通	157通	44.9%
合計	3,000通	1,275通	42.5%

(2) アンケート集計結果から見える現状と課題

分野	調査対象者	現状	課題
生活支援	障害者	担当の相談支援専門員の支援に満足している場合の理由について、「自分が希望する生活や意向をしっかり聞いてもらえた」が高くなっており、自分の意見や希望をしっかり聞いてもらえる相談支援体制が求められている。	障害の当事者に加え、家族への支援もいかに充実させるかが課題となっている。
	障害児	子どもの介助者以外で子育てを手伝ってくれる人の有無について、「介助者以外にお子さまの子育てを手伝ってくれる人はいない」が4割近くを占めている。	
	障害児	保護者の日常生活に関する不安や課題について、回答の上位3項目がいずれも介助の負担感に関するものである。	
保健・医療	障害者	暮らしのために充実してほしいことについて、「保健・医療サービスの充実」が最も高くなっている。特に、難病の診断を受けている人での回答が高くなっており、障害や難病を抱えていても安心して暮らすことのできる環境づくりが求められている。	保健・医療の場での早期発見を、福祉的な支援へと円滑につなげる仕組みづくりが重要となっている。
	障害児	子どもの障害や心身の不調に気付いたきっかけについて、「医療機関での受診」と「健康診断」が合わせて6割以上となっている。	
療育・教育	障害児	通園・通所・通学に関する困りごとや心配ごとについて、「今後の進路」が約6割と最も高くなっている。	療育・教育の充実に加え、ライフステージを通じた支援が必要となる。
	障害児	暮らしのために充実してほしいことについて、「就学後療育・教育の充実」が最も高くなっている。	
文化芸術活動・スポーツ	障害者	余暇の過ごし方について、「文化芸術活動」「運動やスポーツ」と回答した割合は一般と児童ともに3割前後である。	余暇活動の充実が必要となる。
	障害児	子どもの日常生活に関する不安や課題について、6歳以上18歳未満で「余暇活動（外出、スポーツ、趣味、その他の習いごとなど）」が特に高い。	

分野	調査対象者	現状	課題
雇用・就業	障害者	現在自宅で過ごしている障害のある方のうち、「将来、一般企業で働きたい」意欲を持っている人は、18歳以上40歳未満で4割近く、40歳以上65歳未満で約2割いる。	就労時における体調変化への対応と理解が、一般企業への就労と定着につなげる上での課題となっている。
	障害者	現在一般企業に就職している障害のある方に、仕事への不満について聞いたところ、「工作中的体調の変化に不安がある」が最も高くなっている。	
	障害者	かつて一般企業を退職した障害のある方に、退職の理由について聞いたところ、「体調が悪化した」が約3割で最も高くなっている。	
情報アクセシビリティ	障害者	福祉サービス等の情報の入手経路について、「市役所の窓口」が約4割、「市報こくぶんじ」が4割近くと市の発行物の利用率が特に高くなっている。特に65歳以上75歳未満は「市報こくぶんじ」が5割以上、「市の刊行物」が2割以上を占めている。	世代や障害の特性に応じて、アクセスの利便性に偏りが生まれることのない発信方法への配慮が重要となっている。
	障害児	福祉サービス等の情報の入手経路について、「友人から聞く」が4割以上、「インターネット」が4割近くで特に高くなっている。	
生活環境	障害者	外出時に感じる困難や不便について、「歩道が少なく、段差が多い」と「歩行者や走行自転車のマナーが悪い」の路上・路面における項目が2割以上で高くなっている。	外出時の環境整備が必要となる。
	障害児	外出時に感じる困難や不便について、「困ったとき、周りの人の助けが得られない」が約3割で最も高くなっている。	
安全・安心	障害者	災害発生時に困ることや不安に感じることについて、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が4割近くで最も高くなっている。	バリアフリー化などのハード面だけではなく、ソフト面の両軸を推進していく必要がある。
	障害児	災害発生時に困ることや不安に感じることについて、「一人では避難できない」が約5割で最も高くなっている。	

分野	調査対象者	現状	課題
差別の解消及び権利擁護の推進	障害児	障害を理由とする差別やいやな思いを受けた経験の有無について、「よくある」あるいは「ときどきある」と回答した人が、約4割となっている。	障害福祉を推進するためには、制度の整備だけでなく、周りの人に対する障害や病気への理解の促進も課題である。
	障害児	暮らしのために充実してほしいことについて、約2割の人が「障害者への理解を深めるための啓発」と回答している。	
	障害者	ヘルプマークとヘルプカードを使用することで周囲の手助けを受けられたことがあるか聞いたところ、7割近くが「援助を受けたことがない」と回答している。	
	障害児	ヘルプマークとヘルプカードを使用することで周囲の手助けを受けられたことがあるか聞いたところ、9割近くが「援助を受けたことがない」と回答している。	